

食品中の放射性物質検査結果(平成29年度)

平成23年3月に、東日本大震災による福島第一原子力発電所事故がおき、食品中の放射性物質検査が急務となりました。そこで、横浜市衛生研究所においてもガンマ線核種分析装置を導入し、平成23年7月から検査を行っています。

平成29年度に当所で行った食品の検査結果は表1～3のとおりです。放射性セシウム(Cs)を検出したものは478検体中4検体(しいたけ2検体、タケノコ及びばれいしょ各1検体)で、基準値*を超えた検体はありませんでした。

※ 放射性Csの基準値(Cs-134とCs-137の合計)

乳児用食品:50Bq/kg、飲料水:10Bq/kg、牛乳:50Bq/kg、一般食品:100Bq/kg

表1 検体の種類及び数並びに検出検体数

検体の種類	説明	検査検体数	放射性Cs検出検体数
市内産農産物	横浜市内産の農産物	25	4
市内産水産物	横浜市内漁港水揚げの魚介類	60	0
市内産畜産物	横浜市内産の原乳	4	0
市内量販店流通食品	横浜市内で流通している食品	32	0
小学校給食	米類及び牛乳など	357	0
合計		478	4

表2 検体の内訳

検体の種類	検査検体名([]内は検体数)
市内産農産物	うめ[1]、えだまめ[1]、かき[1]、かぶ[1]、キャベツ[1]、きゅうり[1]、こまつな[2]、米(精米)[1]、さつまいも[1]、しいたけ(生)[2]、だいこん[1]、たけのこ[1]、とうもろこし[1]、トマト[2]、なす[1]、日本なし[1]、にんじん[1]、ねぎ[1]、ばれいしょ[1]、ぶどう[1]、ほうれんそう[1]、レタス[1]
市内産水産物	アイナメ[1]、ウミタナゴ[1]、キチヌ[1]、クロダイ[1]、コショウダイ[1]、コノシロ[1]、シリヤケイカ[1]、シログチ[14]、スズキ[10]、タチウオ[16]、ヒラメ[5]、マアジ[1]、マコガレイ[1]、マサバ[3]、マダイ[2]、マトウダイ[1]
市内産畜産物	原乳[4]
市内量販店流通食品	加工乳[1]、牛乳[11]、粉ミルク[4]、米(精米)[3]、清涼飲料水(乳児用食品)[2]、ゼリー[1]、低脂肪牛乳[1]、乳飲料[1]、ベビーフード[8]、
小学校給食	あずき[1]、牛乳[175]、米(精米)[96]、胚芽米[34]、発酵乳[4]、麦[46]、もち米[1]

表3 放射性Cs検出検体の検査結果

検出検体([]内はCs検出検体数)	結果(Bq/kg)		
	Cs-134	Cs-137	Cs合計
しいたけ(生)[2]	0.974	5.34	6.3
	不検出(<0.601)	4.33	4.3
たけのこ[1]	1.93	11.1	13
ばれいしょ[1]	不検出(<0.687)	0.784	0.78

【 理化学検査研究課 環境化学担当 】